

## 当事者による情報発信・啓発活動である「メディア活動」(「インクルーシブメディア」)

武部正明 (インクルーシブ生涯学習プログラム コーディネーター)

### 【概要】

インクルーシブ・メディア (以下、メディア活動) は、2022 年度から開始した活動である。2022 年度は、本インクルーシブ生涯学習プログラムを今後、社会実装していくために多くの人たち (学齢期後半から青年期の障害のある方々とその家族、高等学校の先生方、大学関係者、一般の高校生や大学生など) に知ってもらうためのコンテンツを制作することを目的とした。また動画を制作するための取材、撮影、編集等を当事者である知的障害・発達障害のある勤労青年たち (岩本健吾氏と今藤孝拓氏) が主導で行い、社会に発信するという点が本メディア活動における重要な要素である。2022 年度は、若者であれば誰でも参加可能な「セミナー」に焦点をあて、動画を制作し YouTube にて配信した (<https://youtu.be/a5u41kOhjkg>)。なお、この活動を行うに際し、テレビ局や映像制作会社の方に取材に関する事前の指導 (企画と取材・技術指導、倫理面への配慮等)、動画編集の技術指導をしていただいた。

2023 年度は、岩本健吾氏と今藤孝拓氏を中心に、メディア活動のサポーターとして宮地秀行氏 (障害者スポーツ文化センターにて長年、障害者支援に従事。様々なスポーツ・文化活動を企画・運営等を担っている)、津布久守氏 (宮地氏のもとでスポーツ・文化活動の映像制作等を行っている) に協力を仰いだ。加えて、知的障害・発達障害者の療育や支援の専門職 (保育士、心理士) 2 名にボランティアとしてサポートをしていただいた。

8 月 26 日 (土) にて岩本健吾氏と今藤孝拓氏、宮地秀行氏らで打合せを行い、2023 年度のメディア活動の主な目的は、引き続き「自分たちで、インクルーシブ生涯学習プログラムの普及啓発の動画を作る」こととし、最優先で啓発したい内容は「セミナー」であること、特にその中の「私の趣味自慢タイム」の動画を作ることにした。「インクルーシブセミナー (「大学で学ぶ楽しみ発見セミナー」)」の項で記述したように、2023 年度は「私の趣味自慢タイム」の実施方法を変更しており、その点を発信することでセミナーの啓発と動機づけに繋がると考えたためである。また、この「私の趣味自慢タイム」を当事者 (知的障害・発達障害のある勤労青年、大学生で構成するインクルーシブリサーチのメンバー) が進行するため、リサーチ活動の様子も同時に撮影することとした。以上を踏まえ、主な活動スケジュールは表 5 の通りに組んだ。

表 5 2024 年度インクルーシブメディア活動スケジュール

日時	内容
2023 年	
8 月 26 日 (土)	打合せ (活動目標、計画)

9月23日(土)	入講式、関係者への挨拶
9月30日(土)	第1回セミナーの取材・撮影
10月14日(土)	リサーチ活動の撮影
11月4日(土)	日本発達障害学会第58回研究会 自主シンポジウムにて発表
11月11日(土)	第2回セミナーの取材・撮影
11月18日(土)	リサーチ活動の撮影
12月9日(土)	第3回セミナーの取材・撮影
12月23日(土)	打合せ(動画編集)
2024年	
1月27日(土)	打合せ(動画編集)
2月3日(土)	成果報告会にて制作した動画の発表

### 【実施結果】

メディア活動は、チームワークのもと、3回のセミナーの取材・撮影を行った後、今藤孝拓氏と岩本健吾氏が中心となって作成した動画制作のシナリオを作成した。コーディネーター、サポーター、ボランティアは彼らの意向が形となるように下支えすることに徹した。そのシナリオに沿って必要な動画を選択し、編集に必要な動画撮影も行い、サポーターである津布久守氏の援助を得て2023年度の動画を完成させた。

### 3回のセミナーでの取材・撮影の様子



## 日本発達障害学会第 58 回研究会 自主シンポジウムでの発表の様子



なお、この活動の合間に 11 月 3 日に日本発達障害学会第 58 回研究大会にて、自主シンポジウムを行った。

## 動画編集に関する打合せ及び撮影の様子



## 今藤孝拓氏と岩本健吾氏が中心となって作成した動画のシナリオ（抜粋）

インクルーシブセミナー第3部「私の趣味自慢タイム」配信動画台本

2023.11 版

映像	T C	秒	ナレーション
<p>今藤さん 岩本 顔出し</p> <p>(バック BGM : Stream 「フリー-BGM」)</p>			<p>みなさん、こんにちは</p> <p>私たちは、神奈川県を中心に活動するインクルーシブ・メディアチームのこんちゃんこと、今藤孝拓です！</p> <p>同じくメディアチームのIWA ニャンこと、岩本健吾です！</p> <p>「私たちは相模女子大学や相模原市の皆さんと一緒に2022年からインクルーシブ・メディアの活動を始めました！」</p> <p>「インクルーシブ・メディアとは、誰もが共に学べるインクルーシブ社会を目指して私たちが情報を取材し、発信する活動のことです。」</p>
<p>岩本 今藤 顔出し</p> <p>インクルーシブとは、障害の有無、性別等関係なく、全ての人が共にお互いを尊重していくことを言い、共生社会と呼ばれることもある</p>			<p>インクルーシブとは何か、簡単に説明しますと…</p> <p>障害、性別、年齢、国籍などで仲間外れにせず、お互いを認め合いながら、みんなで共に生きていこうというものです</p>

### 配信する動画に必要なナレーション動画的一幕



### 【2023年度のメディア活動のまとめと今後の課題】

2023年度のメディア活動は、2022年度の多様な経験を活かすことができたと言える。今藤孝拓氏と岩本健吾氏の当事者から「この時期に、〇〇の準備が必要ではないか？」という相談をコーディネーターは度々受けており、彼らが見通しをもって活動を進めている様子がみられた。また取材・撮影上の倫理的配慮（同意書等の手配、撮影上の配慮等）もチーム全体で念頭に置いて準備を進めることができた。

今藤孝拓氏と岩本健吾氏から「2024年度にはメディア活動のメンバーを増やしたい」との意向をすでに伺っており、活動の基盤を固めたいという意図であると考えられる。彼らだからできるメディア活動ではなく、他の当事者もできるようなメディア活動のための体制づくりやマニュアル作成が今後の課題である。

## 当事者による調査・研究活動である「リサーチ」（インクルーシブリサーチ）

武部正明（インクルーシブ生涯学習プログラム コーディネーター）

### 【概要】

インクルーシブリサーチ（以下、リサーチ）は、知的障害・発達障害のある勤労青年と相模女子大学人間社会学部人間心理学科狩野ゼミ生を中心に 2021 年度から開始され、「学校を卒業した後も学びを続ける」をテーマに、発達障害や知的障害の若者、学生を対象としたニーズ調査を行ってきた。これまでの 2 年間で勤労青年と学生が生涯学習の機会を主体的に考える当事者として活動した調査結果等はもちろん、その意義、価値などの蓄積を前提として、2023 年度はコーディネーターとしてリサーチでの活動の運営を担うこととなった。

2023 年度の活動でコーディネーターとして重点に置いたことは、勤労青年と学生という当事者の主体性を基盤としつつ、①メンバー同士で話し合う「ミーティング・リサーチ」と実際に生涯学習に対する参加者のニーズ調査を行う「アクション・リサーチ」と活動を分けて展開したこと、②その活動の様子を中心にリサーチでの活動内容を社会に発信するため、「インクルーシブメディア」と連動すること、③リサーチでの活動は単年度での成果だけでなく長期的な成果を意識すること、の 3 点である。これは、2022 年度のリサーチ活動の総括にて、「参加メンバーの負担感の解消」と「発信する場の確保」という点が報告されていたことを踏まえた。なお、活動のスケジュール、メンバーは以下の通りである（表 1）。

### 1. スケジュール

表 1 インクルーシブリサーチ 2023 年度活動スケジュール

1	2	3	-	4	5	6	7	8
9月23日	9月30日	10月14日	11月4日	11月11日	11月18日	12月9日	1月27日	2月3日
M.R.	A.R.	M.R.	学会発表	A.R.	M.R.	A.R.	M.R.	成果 報告会
9:00 入講式	9:00 準備	9:00～ 11:00 M.R.	日本発 達障害 学会 (第 58 回研究 大会) 自主シ ンポジ ウムに て発表	9:00 準備	9:00～ 11:00 M.R.	9:00 準備	9:00～ 11:00 M.R.	成果発表
9:50 M.R.	10:30 A.R.  13:00 振り返り			10:30 A.R.  13:00 振り返り		10:30 A.R.  13:00 振り返り		

M.R.：ミーティング・リサーチ A.R.：アクション・リサーチ

※日本発達障害学会での自主シンポジウムでの発表は、「メディア」の頁を参照

## 2. メンバー

勤労青年 5 名（継続 4 名、新規 1 名）、大学生 5 名（4 年生 3 名、3 年生 2 名）の 10 名で活動を行った。なお、勤労青年 5 名のうち 2 名はインクルーシブメディアを兼務している。

## 3. 2023 年度の活動目的（テーマ）と方法

これまでの 2 年間、リサーチでは「知的障害・発達障害の若者が大学に求めるニーズとは？」、「学校を卒業した後も学びを続けるためには？」というテーマについて検討を重ねてきた（2021 年度及び 2022 年度本事業報告書を参照）。このテーマを追求することで障害のある若者のみならず大学生にとってもインクルーシブな生涯学習の場とは何か？、何が求められているのか？を検討する機会ともなった。そこで、2023 年度は、障害のある若者がアクセスしやすいインクルーシブセミナーを題材として、「みんなが楽しめるセミナーとは？」という具体的なテーマを設定することとした。実際にこれまでセミナーには一定数の若者が参加してきた実績があり、かつリサーチメンバー自身も参加し、良い点や改善点を抽出しやすいことが想定されたからである。また、3 部構成で展開されているセミナーのうち、「第 3 部 私の趣味自慢タイム」をリサーチメンバーが進行や記録をすることでリアルに参加している若者とコミュニケーションを行い、セミナーに対する満足度や改善点を聴取するという「アクション・リサーチ」を行うこととした。リサーチメンバー自身の思いや考えだけでなく、実際の参加者の「声」を聴くことでインクルーシブな生涯学習の場を現実的に検討する材料を自ら得る機会となることが期待された。その得られた材料を今度は「ミーティング・リサーチ」にて共有し議論できるようにスケジュールを組むこととした。

さらに、その様子をメディア活動の取材・撮影を受け、動画配信されることで、当事者によって進行するセミナーの様子を、当事者が取材・撮影し、当事者が社会に発信するという仕組みとした。このように、リサーチ、メディア、セミナーが連動することで、当事者が考える「インクルーシブな生涯学習とは？」に対する一つの意見・提案を社会に示す試みになると考えた（図 1）。

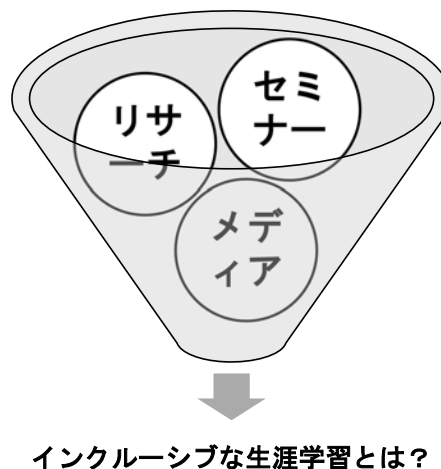


図 1 セミナー・リサーチ・メディアの連動による当事者主体の活動

## 【実施結果】

まず、2024年12月まで活動の概要について報告する。次に、セミナー参加者からの「第3部 私の趣味自慢タイム」に対するアンケート結果を示す。リサーチメンバーによる事前の準備や振り返りと、その彼らの実践に対する結果（参加者の感想）から2023年度のリサーチ活動の成果を考察する。

### 第1回（9月23日）：ミーティング・リサーチ

場所：相模女子大学8号館833教室

#### 活動概要

- ・メンバーの顔合わせ及び自己紹介
- ・2022年度までのリサーチ活動の振り返り
- ・2023年度のリサーチ活動の目的と活動内容の決定
- ・「アクション・リサーチ」（セミナー第3部「私の趣味自慢タイム」のグループ分けと進行の練習）

リサーチ活動で使用したスライドと話し合いの様子

<p style="text-align: center;"><b>2023年度の「リサーチ活動」</b></p> <p>2023年度のテーマは、 <u>「みんなが楽しめるセミナーとは？」</u></p> <p><b>【目標】</b>「成果報告会」にて、リサーチメンバーで発表！</p>	<p style="text-align: center;"><b>2023年度の「リサーチ活動」</b></p> <p><b>「ミーティング・リサーチ」：</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「みんなが楽しめるセミナーとは？」についてミーティング</li></ul> <p><b>「アクション・リサーチ」：</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・セミナー（3回）の「私の趣味自慢タイム」で司会をする</li><li>・参加者が楽しそうか観察する</li><li>・参加者の話すこと（感想と要望）をメモする</li></ul>
---	--



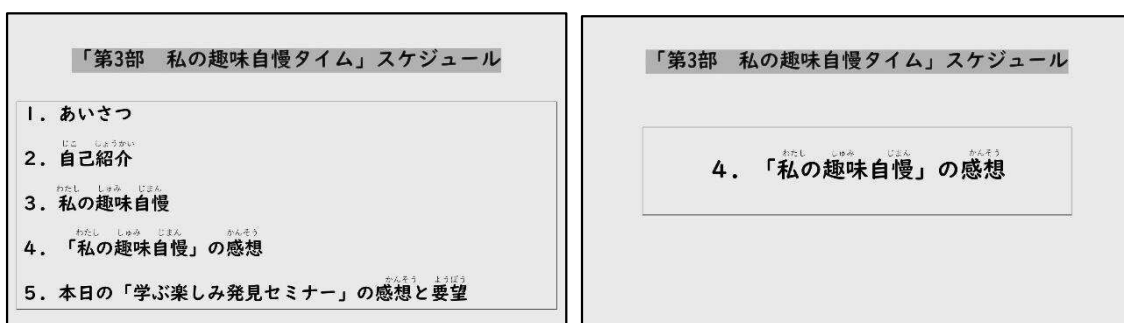
#### リサーチメンバーの感想

セミナー当日に展開する4グループに分かれて手順を確認後、2グループ合同で「アクション・リサーチ」の「私の趣味自慢タイム」で司会進行・参加者の感想の記録をすることの練習を行った。特に司会進行に関する感想では、「（自信をもって司会をできるかどうかわからないという点について）司会をあまりやったことがなく、どう進めたら良いかまだ探りな

がら行っていたところだから。」「記録は、実際にやってみないと上手くいくか分からないので不安ですが、流れなどを掴むことはできた。」「勤労青年の先輩と4年生の先輩と実際に練習を通して流れを確認したり、こうしたらもっといいよねと改善をかけることが出来た。」「初めての事なので少し自信がないです。」「個人的な理由で、元々司会が苦手な点と、緊張しいな点から上手く出来るか不安を感じた。」などが挙げられた。

なお、進行する上で、各回とも「進行用の紙芝居（視覚情報）」、「記録用紙（参加者の感想等を記載するため）」を4グループを用意した。進行するリサーチメンバーにとってだけでなく、セミナー参加者にとってもわかりやすくなるような設定とした。

### 「進行用の紙芝居（視覚情報）」



## 第2回（9月30日）：アクション・リサーチ

場所：相模女子大学8号館833教室集合後、相模女子大学カフェテリアにてセミナー参加活動概要

・「アクション・リサーチ」として、セミナー第3部「私の趣味自慢タイム」の司会進行及び参加者の感想等の記録





### リサーチメンバーの感想

まず司会進行については、「よくできた」、「少しできた」に分かれ、その理由として「円滑に進行することができ、会話を広げる質問などもできたと思う。」、「原稿を見ながら、時間内に終わるように進められたから。」、「グループのメンバーと協力してできたから」、「参加しゃの助けを頂きながら進行ができました」などと記載しており、一定の達成感が得られたと考えられる。次に記録については、「どちらともいえない」、「少しできた」、「ほとんどできなかった」となり、その理由として「会話のテンポがはやくメモが追いつかないことがあった、全文をメモするのではなくキーワードのみを拾おうと思ったが選定が難しかったと感じたため」、「めちゃくちゃむずかしかったです。次から次への皆さん話すので、大変でした。感想や要望の部分では、何人か書けなかったので、もう一人の方にお問い合わせしました。」、「メモをとる上での工夫含め、話に追いつけないところがあって難しかったから。」、「ある程度は問題なく記録できたが、感想になると、文章量が多く要点をまとめるのが難しかったため。」とのことで、参加者がリアルタイムで話す内容を記録することに多少の戸惑いを感じているようであった。そこで、今回ボランティア参加した相模原市発達障害支援センター職員にも同様に記録をしてもらったため、その記録用紙を後日リサーチメンバー全員に配信し、お手本とすることとした。記録をとることは常としている臨床現場の専門職の記録を見て、すべての文言を記録する必要のないことなどを確認した。

### 第3回（10月14日）：ミーティング・リサーチ

場所：相模女子大学8号館833教室

#### 活動概要

- ・9月30日のアクション・リサーチの振り返り
- ・11月11日のアクション・リサーチに向けた提案
- ・現時点で考える「みんなが楽しめるセミナーとは？」についての検討

#### 活動の様子（司会と板書は立候補による）



#### ①次回の「アクション・リサーチ」にて追加で参加者に聞いてみたいこと

- ・このセミナー以外の大学の授業で聞いてみたいこと、セミナーの改善点を聞く（良い点を回答する人が多いので、敢えて聞く）、趣味の発表時間はちょうどよいか？（長いのか？短

いのか?)、アンケート欄に「趣味の発表時間が適切かどうか」を聞く項目を設ける。

・「3部」が始まる前の休憩中に「1部と2部の感想」を聞く聴く。

## ②現時点で考える「みんなが楽しめるセミナー」とは？

9月30日に取り組んでみて良いと感じた点

(第1部について)

・講師の先生にとってもインクルーシブな授業とは何かを学べる機会になったのではないかと(わかりやすい授業をするという点で)

(第3部について)

・小グループ形式での発表になってよかった、・安心して話せる雰囲気を作れていい、車いすの方が参加しやすくてよい、参加者の方にニックネームを作ったことで親しみやすく話すことができた。

## 第4回(11月11日):アクション・リサーチ

場所:相模女子大学8号館833教室集合後、相模女子大学カフェテリアにてセミナー参加活動概要

・「アクション・リサーチ」として、セミナー第3部「私の趣味自慢タイム」の司会進行及び参加者の感想等の記録



### リサーチメンバーの感想

第2回目のアクション・リサーチを実施した。各グループで司会進行と記録の担当者を変更して実施していた。

まず司会進行については、「よくできた」、「少しできた」としており、その理由として「少し時間を気にしながら記録の人と司会や進行ができたと思います」、「書記の方の力も借りながらではありましたが、やり遂げることができた」、「周りの表情や状況を見ながら司会進行ができた。」、「趣味を発表してくださっている方に時折質問を試してみたり、相槌を打った

りしてなるべく場が和むようにしました。また、時間も気にすることができ、時間ぴったりで感想まで終わることができた。」とのことであった。次に記録については、「「よくできた」、「少しできた」としており、その理由として「ほとんど記録できた」、「話聞きながら書くのが少し難しかった」、「話を聞きながら書くのは難しかったけど、全体の発表の後時間に余裕があり参加者の方に発表内容を確認できたので書くことができた」、「みんなの話を聞きながら、大切な部分だけはメモすることが出来たと思った。」とのことであった。いずれも役割を変更したグループが多かったが、第1回の経験を踏まえた成功体験になっている様子であった。

さらに、「グループメンバーが同じだったこともあり、スムーズに進行できて良かった。」、「前回とほぼ同じ参加者だったので、自己紹介がスムーズだったと思います。」、「前回と比べて第3部の時間調整がスムーズだったと思います。」、「前回と比べてグループの人数が2人程少なかったため、一人一人にかけられる時間が多く丁寧にすすめられたと思います。」、「始まる前に参加者に少し話しかけたりすることが出来た」、「前回と比べて工夫した点があったので、そこを含めてまた反省・改善をかけていきたいなと思った。①座る順番→奥の席に司会・書記をそれぞれ配置して行ってみた。書記の進行具合を見ながら進めることが出来たのでとても良かった。②「1部・2部」の感想を自己紹介のところに組み込んであげると記憶が真新しいので新鮮な意見が聞けたのでよかったなと感じました。」、「前回よりもスムーズに発表や時間調整が上手くいったと思います。」、「前回は出してなかった趣味を発表している方もいて、発表がだんだん盛り上がり良かったと思う。」、「今回は初めての司会でした。自己紹介前にネームプレートを記入することの促しを忘れてしまいました。そこを他のメンバーから教えてもらい、気づくことができました。ミスをしてもお互いが助け合うことができること、雰囲気は大切だと改めて思いました。」とのことであった。自身で改善点を考えるなど体験することでの気づきは重要であると考えられる。

## 第5回（11月18日）：ミーティング・リサーチ

場所：相模女子大学8号館833教室

### 活動概要

- ・11月11日のアクション・リサーチの振り返り
- ・12月9日のアクション・リサーチに向けた提案
- ・現時点で考える「みんなが楽しめるセミナーとは？」についての検討

#### ①各グループのメンバーについて

リサーチメンバーの組合せは変更しないが、一般参加者の組合せを変更する（少なくとも同一にはしない）。これは、2回同じグループで展開したので、第3回はシャッフルがよい（一期一会も大切）との意見が多数となったためである。

#### ②進行上の工夫について

一つは、トイレ休憩時の時間帯に「リサーチメンバーから同じグループの一般参加者に声

をかけて、雑談をする、名札の案内をする」などする（お互いのアイスブレイクのため）。もう一つは、開始後の「自己紹介」で、「第1部」と「第2部」の感想を聴き取る。休憩時から「あとで第1部と第2部の感想を聞くね」と事前に伝えておく。

### ③今後の「セミナー」について

今回の話合いの結果としては、表2の通りとなったが、結論としてまとまったわけではなくあくまで仮説の段階としてまとめである点をメンバー同士で共有した12月9日の第3回のアクション・リサーチでも引き続き仮説を検証することとする。

表2 当事者が考えるセミナーの理想形

カテゴリー	意見・アイデア
1. コンセプト (大事にしたいこと)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・失敗しても良い(失敗を恐れない)、安心して参加できるセミナー(完璧を目指さなくてもよい)</li> <li>・楽しませんか?というセミナー</li> <li>・講義を担当する講師がわかりやすい話を工夫してくれる</li> </ul>
2. 今後開催したいテーマ(特に第1部)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デザイン(講義+ワークショップ等)、日常生活に関する講義(障害年金、ひとり暮らし、お金の使い方等)、音楽(モーツァルト、ベートーヴェンの歴史)、コレクター(自分のコレクション)についての講義、動物心理学(動物から世界をどう見えるかなど)、栄養学(学内の先生に依頼できるのでは?)、鉄道、宇宙、防災、メンタルヘルス・アンガーマネジメント、瞑想(心理学系もあると良い)、発声(元気よくプレゼンするために等)</li> </ul>
3. 回数やスケジュール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理想は、「1カ月に2~3回」「年間に4~5回(8月は開催できると良い)」、「土曜に限らず日曜・祝日開催もあるとよい」</li> <li>・一方、「回数は現状から増やさなくてもよい(運営面の負担、参加者にとっても多いと途中参加しにくくなるのではないか)」</li> </ul>

活動の様子(司会と板書は立候補による)

グループ別の振り返り



## 第6回（12月9日）：アクション・リサーチ

場所：相模女子大学 8号館 833 教室集合後、相模女子大学カフェテリアにてセミナー参加活動概要

・「アクション・リサーチ」として、セミナー第3部「私の趣味自慢タイム」の司会進行及び参加者の感想等の記録

### リサーチメンバーの感想

第3回のアクション・リサーチは、体調不良のため3名が欠席となった。欠席が多かったが、司会進行については、「よくできた」、「少しできた」との回答で、「趣味自慢タイムの順番を自己紹介のときと一緒にしたので、前回よりスムーズに司会が出来たと思う。」、「時間管理をしっかりと各発表できたこと自分から場を盛り上げてお手本になれるよう頑張りました。」という自信のあるコメントもみられるようになったが、「進行をしたり、話を降ったりすることはできたが、3分過ぎたときになかなか切ることができず、タイムキーパーの役割が果たせなかった。」とやや自分に対して厳しめの振り返りもみられた。

次に記録については、「少しできた」、「どちらともいえない」との回答で、「聴きながらメモを取るのが難しく、字も汚く、見にくいメモになってしまったと思いますが、頑張ってメモ取りました。」、「前々回よりは、余裕をもってメモをすることができた。」、「1回目に行ったメモや相模原市職員の本を見て自分に生かすことが出来たから。」とのことで自分への満足度は厳しくしているが、過去の経験や資料をもとに前向きな振り返りをしていた。

また、「初対面ということで、司会としては話しかけやすく、新鮮で良かった。参加者の方からも好評だった。」、「新しい人の趣味を聞いて、聞いた事がない趣味も聞いて良かったという感想もあったので、新鮮味があって良かったと思います。」、「何回か一緒になった人とは、その人のことが段々とわかり始めたという、同じ人でも前向きな感想もあったなと思いました。」、「今まで無かった趣味の話も聞いたことでさらに盛り上がって良かったと思う。

いい刺激になった。」、「感想として前回とは違う人の発表で新たな発見や驚きがあり聞いてみてとてもよかったです。」、「皆さん飽きずに楽しんでいただいていたのではないかと思います。」、「初めて出会う人と自慢タイムを通して共通の話題で盛り上がれたり、自分の知らなかったことを知ることが出来たりするのが良かったといった意見を聞いたことが嬉しかった。」とのことで、「一般参加者のメンバー構成を一部変更したこと」、「感想を合間に聞く工夫をする」という前回からの変更点について肯定的な評価をしていた。

### セミナー参加者の「私の趣味自慢タイムのグループメンバーとの関係」について

アンケートにて、「本日のグループメンバーへひと言メッセージをお願いします」という自由記述欄を設けた。その結果、「皆さん、とても話しやすく楽しい時間でした。ありがとうございました。」、「みんな面白くて最高でした!」、「楽しい方々ばかりでまたお会いできたらいいなと思いました」、「交流ができて楽しかったです。ありがとうございました。」(以

上、「楽しい時間を過ごした」、「面白い趣味を共有して下さりありがとうございました！また新たな世界を知ることが出来ました！」、「新しい趣味を発表してる人もいて新しい発見ができました」、「お話が苦手な方も得意な方も、それぞれ自分の好きなものを自分の言葉で紹介していてとても素敵でした。」、(以上、「紹介してくれた趣味が面白かった）」、「これからも交流をしていきたいと思うのでぜひ仲良くしてください。」、「話を聞いてくれて嬉しかったです」、「また、一緒に楽しい話が出来たらいいなあと思います。」、「長話に付き合ってくださいありがとうございました」(以上、「コミュニケーションをとること・話をする自体が嬉しかった」) というように仲間づきあい及び趣味に関するコミュニケーションが参加者にとって意義があるということが示唆された。

### 【2023 年度のリサーチ活動のまとめと今後の課題】

2023 年度のリサーチ活動は、コーディネーターとして、①「ミーティング・リサーチ」と「アクション・リサーチ」の2軸で展開したこと、②「インクルーシブメディア」と連動すること、③リサーチでの活動は単年度での成果だけでなく長期的な成果を意識すること、の3点に重点を置いた。①と②について、障害の有無を問わず若者にとってアクセシビリティの高い「セミナー」の進行をリサーチチームが担い、かつそれをメディアチームが発信することができた点が成果であると考えられる。また、セミナー参加者の感想を加味すると、「私の趣味自慢タイム」を中心にセミナーが若者の仲間づきあい及び趣味に関するコミュニケーションの機会となっていることが示唆された。加えて、リサーチメンバーが進行を担うことのもう一つの目的は「当事者自らが参加者のニーズを調査」することである。これは「インクルーシブリサーチ」の概念 (Walmsley & Johnson, 2008) と一致するものである。

テーマとして掲げた「みんなが楽しめるセミナーとは何か？」の問いに対しては2023年度のみで明確な回答が示せたわけではなく、いくつかの仮説を抽出するに留まった。③に掲げたように、この仮説を2024年度以降にアクション・リサーチ及びミーティング・リサーチを通じて引き続き検証することが必要と考える。

一方、運営上の課題も認められる。まず、今年度は4回のミーティング・リサーチ(土曜日、2時間)という限られた時間の中でメンバー同士が十分に議論できたとは言えない。しかし、就労している知的障害・発達障害のある若者、学業やサークル活動・アルバイト等のある大学生にとって無理のない形で、かつ十分な議論の時間を確保することは単年度というスパンでは容易ではない。この点からすると、単年度での成果に着目しすぎず、数年間のスパンで議論、検証する視点を持つことが重要と考える。ただし、リサーチメンバーとなる大学生は2年間のかかわりに限定されるため、原則、勤労青年側が当事者として自律的な運営ができるようサポートすることが求められる(具体的には、作成した動画、セミナー用に作成した資料等をリサーチ活動の成果物として保管する等)。その上で、リサーチ活動の開始時期を現状よりもう少し早め、勤労青年側が大学生側とそれまでの成果を共有し、当該年度の目的を議論する時間を確保し、両者のチームワークを促進することが有効と考える。

## 学び続ける大切さを知る「啓発連続講座」

相模原市発達障害支援センター

### 【背景・目的】

令和3年度から相模女子大学が主体となってプログラム開発を進め、令和4年度においてはアクセシビリティの高いプログラムの型がほぼ確立された。その次の段階として、ターゲットとする発達障害や知的障害のある若者に本プログラムをどのように認知してもらい、参加につなぐかという点が課題となっていた。

そこで、相模原市では、これから社会に出る若者やその家族、教員、支援者に対して、学校卒業後の生涯学習の重要性について理解促進を図ることを目的に、啓発連続講座を開催した。また、講座を通じて、「好きなことを学ぶ」という考えに触れ、相模女子大学主催の「大学で学ぶ楽しみ発見セミナー」への参加者増加を図ることもねらいとした。

### 【内容】

タイトル	「人生ってなに?」「働くってなに?」「ずっと学んでなに?」
日時	第1回：8月5日（土） 13：00～15：30 第2回：9月16日（土） 13：00～15：30
テーマ	第1部：中高生から始める!「社会人生活準備講座」 第2部：働いている先輩に聞いてみよう!「学びを楽しもう!」
講師	第1部：日戸 由刈 氏（相模女子大学 教授） 井手 梓 氏（株式会社Kaie n） 第2部：川口 信雄 氏（株式会社はまりハ 顧問） 岩本 健吾 氏（インクルーシブ・プログラム開発協力者）
形式	相模女子大学およびWeb会議システムZoomのハイブリット形式

### 【周知・広報活動】

チラシ配布、報道提供（市・相模女子大学）、ホームページ（市・相模女子大学）、市広報紙、ラジオ、メール配信等を活用して周知を行った。なお、主なチラシの配布先は、市内支援学校、市内インクルーシブ教育実践推進校、福祉研修センター（相模原市社会福祉事業団）、市PTA連絡協議会、市教職員向け研修、市関連窓口、神奈川県障害者スポーツ協会、神奈川県教育委員会（県内インクルーシブ教育実践推進校）等。

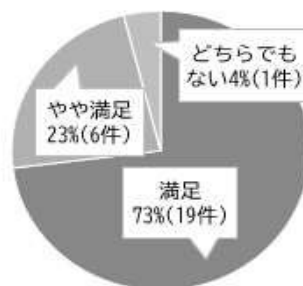
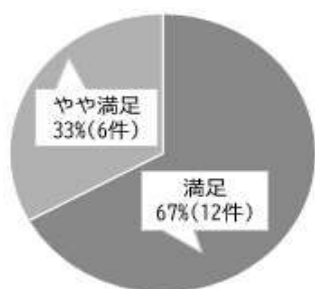
【実施結果】

参加人数について、第1回は68名（会場36名、オンライン32名）。会場参加者の内訳は、当事者8名、保護者・家族4名、教員1名、支援者23名。第2回は48名（会場20名、オンライン28名）。会場参加者の内訳は、当事者9名、保護者・家族5名、支援者6名であった。

<満足度>

第1回（回答：18名）

第2回（回答：26名）



<アンケート（抜粋）>

当事者	「社会人への準備のしかたなど何をするのかがわかった」、「当事者の方が生き生きと働いて余暇も充実させている様子を見て、将来に対して希望を持つこともできた」、「学校で習っていないことを知ることができてよかった」等
保護者・家族	「未来に希望が持てた」「ゴールは社会の中で豊かな人生を送ること、という言葉が印象に残った」等
教員	「大学で学びたい、との言葉にハッとさせられた」「働き続けるために何が大切なのかを理由も含めて教えてもらった」「学校段階でどのような支援ができるか考えることができた」等
支援者	「就労するにはどうすればいいかということよりも、自分の生活を充実させることや、趣味・好きなことも大切という視点を知ることができた」等

【今後に向けて】

本講座は、上記のアンケート結果のとおり、一定の評価を得ることができたのではないかと考える。しかし、「当事者にとっては分かりづらい部分があった」という意見の一方で、「もう少し踏み込んだ説明がほしかった」という意見があったことは、講座の対象を当事者も含め広く設定したことにより、結果的に「誰に何を伝えるか」が曖昧になってしまったからと捉えている。

社会生活を送る上では、「余暇や生涯学習の充実が、メンタルヘルスや生活の質の向上に繋がる」ことをより多くの人に伝えるために、次年度に向け、講座の構成や周知方法、開催時期等を再検討したい。